



Fig. 1 ミッキーマウスの顔の形をしたステレオビューア(ビューマスター)



Fig. 4 1950年代の「ビューマスター モデルC」ビューアとアポロ計画のリールセット



Fig. 2 (株)トミーが販売したビューアのパッケージ外観とリール



Fig. 6 6x6判カラーライドのステレオ専用マウントとビューア



Fig. 3 色違いの「ビューマスター モデルL」ビューア

口絵解説

「画像からくり」

第16回 カラーズライドフィルムを用いたステレオビューア

16. Stereo viewers using color slide film

桑山哲郎

気軽にステレオ写真を楽しむ機材として、左右に並んだ像を用いるステレオビューア^(注1)は古く(1851年)から商品として販売されている。カラーズライドフィルムとの相性が良く、35ミリズライドマウントを使用するステレオ写真集も各種発売されているが、今回は著名な「ビューマスター」をまず取り上げる。

最初のビューマスターは1940年に発売されたが、基本特許にあたるUS Patent 2,189,285 (1940年)¹⁾にはその技術内容が詳しく記述されている。1935年、外式カラーリバーサルフィルム「コダクローム (Kodachrome)」が発売され、その高解像力を活用しビューマスターが発明されたことが、率直に記述されている。また、その画面枠寸法は上下10.5 mm、左右11.75 mmであるが、これは35ミリ幅の(パーフォーレーションが無い)フィルムを左右2分割して使用することから決まったことも、はっきりと図示されている。なおこの発明を引用しているUS Patentから、ズライドフィルムを用いたビューア²⁾は、ビューマスターの発明と成功に続くものであるという技術史の一断面を知ることができる。

Fig. 1は、ビューマスターのコレクションを思い立ったら、ぜひ入手したいと皆が思う人気の商品である。一見3Dメガネをかけたミッキーマウスのお面の様に見えるが、後述の「ビューマスター モデルL」ビューアにカバーを加えて作られている。商品名は「Mickey Mouse Character Face Viewer」で、1989年より発売されていて、製造終了年は不明である。私のコレクションは、塗装が一部剥げていて状態があまり良くないが、ご容赦いただきたい。都内のある店で驚くほど安く手に入れることができた。

Fig. 2は、モデルLの中でも、1982年から1985年にかけて(株)トミーが発売した商品のパッケージ外観である。手前に置いてあるのが「ビューマスターのリール」で、7組14枚のズライドフィルムがマウントされている。リールの外径は90 mmで、左右の画像間隔は公表されている数値から計算す

ると65.25 mmとなる。当時、多くのおもちゃ屋では、アイピースから覗いてステレオ写真が鑑賞できる様に並べられていた。レバーを押し下げて画像を送ると、これに連動してリールに印刷された説明文がビューアの中央窓に表示される構造だが、トミーの商品では和訳した表示となっていた。

Fig. 3には、色違いのモデルLを2台並べている。向かって左は青色の本体にオレンジ色のレバー、右は赤色の本体にオレンジ色のレバーが組み合わされているが、白黒写真ではほとんど区別がつかない。このモデルは、1977年から発売され長期間継続して販売されているが、私が左のビューアを入手したのは2002年頃である。色違いや刻印違いなどモデルLにはいろいろなバリエーションがある。現在も製造が継続しているかどうかは確認できていない。

Fig. 4は、ビューマスターの中でも著名な「モデルC」である。黒いベークライトで作られ、製造は1946年から1955年とされている。頑丈な作りで故障が少ないことから現在でも中古市場で入手が容易である。US Patent 2,511,334³⁾を参照すると、このビューアから採用された「スロット・イン」機構、つまり上の溝からリールを挿入する仕組みを理解することができる。ビューマスターでは3枚のリール、21組のステレオ写真で1つのストーリーが完結する形で商品供給が行われている。ビューアと一緒に入手したアポロ計画のリールでは、模型をステレオ写真として撮影している。1960年代、恐らく人類の月面到達以前に発売された商品と思われる。

ビューマスターについて解説するときにないので、「これがズライドフィルムの高画質」と納得できるステレオビューアを最後にご紹介する。Fig. 5は、6×6判のズライドフィルムを1組用いるステレオビューアである。低倍率の大きなアイピースレンズを通して鑑賞すると、雄大な万里の長城の風景が目前に広がる。中国製で、販売元の「ダイヤモンドカメラ有電ビル店」では、メーカー名の表記がなく販売されているが、通信販売でも現在入手が可能である。丁寧に撮影された6×6判のズライドを鑑賞すると、改めてズライドフィルムの高画質が実感される。

引用文献

- 1) US Patent 2,189,285, W. B. Gruber, "Stereoscopic viewing devices", Filed Jan. 20, 1939, Patented Feb. 6, 1940.
- 2) 桑山哲郎, "画像からくり 第6回 フィルムが組み込まれたおもちゃ: ムービービューア", 日本写真学会誌, 74, 2 (2011).
- 3) US Patent 2,511,334, W. B. Gruber, "Stereoscopic viewer", Filed April 28, 1947, Patented June 13, 1950.

(注1) 英単語 "viewer" に対しここでは「ビューア」というカタカナ表記をあてている。これには表記がいろいろあり、歴史的に最も多い表記は「ビューワー」である。また「ビューワー」、「ビューアー」、「ビューア」さらには「ビュア」という表記の商品が共存して発売されている。